共同助成（沖縄県遊技業協同組合）

「パチンコ・パチスロ依存問題を持つ方へ 24時間安心できる居場所を提供する」事業

安心して働ける場所と寝泊まりできる場所の確保・提供により依存問題を抱える人々を支援

沖縄県宜野湾市で依存の問題を抱える人々の社会復帰を支援する活動を続けている団体がある。コーヒーの木の栽培やコーヒーの販売、カフェの運営と就労支援の幅を広げてきたが、2020年は依存から立ち直ろうとする人々が安心して生活できるよう、シェアハウスを確保し、その運営を開始した。

依存問題などを抱える人々の就労の場となっているカフェ

助成金で購入したエスプレッソマシン

コーヒーの栽培・販売、カフェに加え安心して暮らせる宿泊施設の提供

2013年に沖縄県より就労継続支援B型事業所の指定を受け、「ワーカーズホーム」を運営している「一般社団法人むら」。事業所の開設当初から、ギャンブルを始め、アルコール、薬物などの依存問題を抱えた人々に多く利用されている。

そうした利用者と一緒に約200坪の農園でコーヒーの木を130本ほど栽培しているが、それだけでは収量が少ないため、業者から生豆を購入し、選別・焙煎・袋詰め・販売を行っているほか、2019年12月にはPOSCの助成で宜野湾市にカフェをオープンし、利用者に就労の機会と場所を提供している。こうした活動を通して、依存の問題を抱える人に地域社会での役割と居場所を確保し、あわせて日々の悩みごとなどの相談にも応じ、利用者が安心して通所できるような環境を整えている。

同団体は、さらに2020年にPOSCの助成を活用し、依存問題を持つ方々が就労だけでなく、安心して暮らせる場を確保できるよう、寝泊が可能なシェアハウスを開設し、その運営をスタートさせた。

沖縄県では、依存問題の治療にあたる医療機関は本島の中部や南部にあり、それ以外の地方や離島の人々は地元を離れて入院しているが、退院後に地元に戻ると依存問題が再発する不安があるため、退院しても医療機関に近い場所での生活を希望する人が多い。就労の場としてワーカーズホームへの問い合わせや見学も少なくなかったが、これまでは就労の場は提供できても、住む場所がないため、断らざるを得なかった。しかし、シェアハウスを確保できたことで、今後はそうした方々に就労だけでなく、安心して暮らせる場を提供できるようになった。

使わなくなった家を提供してくれる支援者が現れてシェアハウスを開始

シェアハウスは2020年7月から物件探しを始め、2021年2月に物件契約を済ませ、2ヵ月かけて準備を行い、4月1日に利用者の入居を開始した。また、利用者の就労支援として、2020年9月にはエスプレッソマシンを購入し、利用者に対する使い方の講習を行った。マシンはカフェで稼働中であり、利用者はそれを使ってコーヒーを入れ、訪れたお客さんに提供している。

物件探しを始めた当初は、依存問題や障がいをもつ方々が使用することを了承してくれるところがなかなか見つからずに困ったが、確保できた物件は両親が施設入所したため使用しなくなった家を有効活用してほしいと市役所へ連絡があったもので、市役所から同団体へ打診があった。

「依存問題の治療のため、県外のリハビリ施設に入所していた方が、今年の4月から入居していますが、『リハビリは長かったが地元に戻ってくることができて本当にうれしい。ワーカーズホームのシェアハウスがなかったら戻ってくることができなかった』と話しています。また、支援者からは『ぜひ入居させたい方がいるので、開設してくれて助かる』、見学に訪れた方からは『今までイメージできなかった退院後の生活に光が見えたような気がする』、そして家主さんからは『住居に困っている方々のお役に立ててうれしい』といったお声もいただきました。今後も、沖縄の方々を始め、依存問題に悩む方々に必要とされる場所を目指し、事業所やシェアハウスの運営を続けていきたい」と、代表理事の横山さんは話してくれた。

沖縄県遊技業協同組合より

依存問題からの回復のために職場だけでなく住居も提供するという、新たな試みにサポートさせていただきました。

依存問題を抱えた人が安心して暮らせるようオープンしたシェアハウス

助成団体:一般社団法人　むら　ワーカーズホーム　http://www.muraokinawa.org

依存の問題を抱える人々が安心して暮らせる場を提供したい

「依存の問題を持っている」というだけで部屋を借りられず、グループホームへの入居を断られる現在、少人数ではあるが、そういった人々が安心して生活できる場所を提供できるようになりました。今後も継続してパチンコを始めとした依存問題を持つ方々が「普通に暮らせる」ための支援を行っていきます。

一般社団法人　むら　ワーカーズホーム
代表理事　横山 順一さん